二つの戦争の間のロシア・ムスリム
---信者人口と組織---

北川誠一

はじめに
1　ロシアのムスリム人口と分布
2　ロシアのイスラーム組織
1)信者団体とムフティヤット　2)ムスリム信仰組織の統合
結び
地図 1 ロシア連邦区
地図 2 ロシアのグリーン・ベルト
地図 3　　同上

はじめに

アフガン戦争とイラク戦争は、ポストコロニアルの時代に、非ムスリム国家がムスリム主権国家に対して公然かつ一方的に行った軍事的占領であるという点で、大きな歴史的意義のある事件であった。ロシア政府はアフガン戦争に際して、アメリカやNATOの勢力拡張を警戒しつつも、欧米諸国がロシアのチェチェン戦争を黙認する期待と北部同盟を援助してターリバン政権や国際ワッハーブ主義を牽制する政策の延長から、反テロリズム戦争自体を支持し、自らも首都カーブルに医療班を派遣して住民の治療に当たった。一方、ロシア国内のイスラーム教宗教指導者の間には、アメリカ軍の空爆が迫るにつれ微妙な発言が見られるようになり、タタルスタンではターリバン政権が発したジハード宣言に呼応してアフガニスタンに義勇軍を募集する運動さえ起こった。ロシアの最高ムフティーであるタジュッディンやモスクワのムフティーで、ヨーロッパ部ロシアのムスリム指導者ガイヌトッディンの見解は、共に否定的あるいは消極的反対であった。

タジュッディンは、『独立新聞』のミハイル・トゥールスキーMikhail Tul'skijのインタヴュー記事で次のように述べている。

「ターリバンに対する報復作戦についてどう思いますか？という質問に対して、師はこ

の様に喩ることができますと述べた。2、3人のテロリストが、50人もの乗客が乗ったバスを乗っ取ったとします。彼らを罰するためにバスごと射撃するようなものです。テロリストとは戦わなければなりません。しかし、そのようにしてではありません。アフガニスタンにはCIAの支持で作られたキャンプが20個所もあります。さて、アメリカ人は、勿論、彼らを罰することができます。さて、私は今アフガニスタンからの報道を観ていますが、そこでは人々がどんな生活をしているか映されています。飢えた、ぼろを着た人々がロバに乗っています。家は全て破壊されています。アメリカ人はこの20年間まともな姿で残っていた建物をもう全部破壊してしまいました。私はムスリムとして、ムフティーとして、一人の人間としてこの爆撃を非難します。アメリカ人はこの世界で誰が主人かを見せたかったのでこの爆撃を実行したのです。スペインにはバスク人のテロリストがいますし、北アイルランドにもテロリストがいます。これから彼らを爆撃するとでも言うのですか。残念なことにアメリカ人は、この苦しみ抜いたアフガニスタンで誰が世界の主人か見せ付けています。もし彼らが本当にテロリズムと戦うのなら、やり方を知っています。アメリカ、ヨーロッパ、ロシアの特殊任務員と特殊部隊の力を合わせなければなりません。そうすれば平和な住民に大きな被害を与えずにテロリストに勝利することができます」。

更にモスクワのムフティー、ガイヌトッディンも「アメリカ合衆国と同盟諸国は空爆で世界を変えることはできません。テロリスト攻撃の背後にいる人々は、座して死を待っているのではありません。彼らは隠れようとするでしょう。これらの空爆はアフガニスタンの普通の市民を傷つけるでしょう」。「我々ムフティーも、アメリカとNATOは国連安保理事会の承認なしにアフガニスタンの村や町を空爆するようなことはないと信じています。ムスリム諸国のムフティー達は、アメリカのものの見方や基準に従って平和、秩序、民主主義、自由を押し付けるアメリカの望みを嫌っています」。「ロシアには1千900万から2千万のムスリムがいます。彼らは38の民族からなるロシア連邦に生まれた人々です。これらの人々は国家の基礎です。政治家が十字軍や文明の衝突などと言い出すと、それはとても危険です。国家はそれ自体と戦うことはできません。我々は、同じ一つの国に住む同じ一つの国民です」。「我々、宗教指導者はプーチン大統領にロシアがアフガニスタンに対する戦争に参加することは間違いであると、進言しました」などと述べた。

また、アフガン戦争でロシアに対する聖戦を宣言した集団は、11月5日モスクワで記者会見を開催し、同様の見解を表明した。ロシアNTVの報道によるとナフィグッラー・アシロフの発言は、以下のようなものである。「アフガニスタンではロシア連邦が参加してイスラームに対する十字軍戦争が行われている」。「彼の言葉によるとロシアのムスリムは、ムスリム諸国に対する攻撃的政策にけして同意しない。これについて、ムフテイーはアメリカ合衆国と連合軍がアフガニスタンでおこなっており、またロシアを初めとする国際社会がこぞって支持している反テロリズム作戦は、アフガニスタン国民に対する、またターリバンに指導されている主権国家に対する戦争であると確信している」。「ナフィグッラー・アシロフは、神と戦うことはおろかであるからアメリカ人は破滅するであろうと確信

している」。「ロシアのムスリムは夫々、バリケードのどちら側で戦うのか早急に明らかにしなければならない」。「ムスリム各人は、アフガン国家防衛者の側で戦う権利がある」。「間もなくロシアでは、義勇兵を登録するイスラーム組織が現れるであろう」。イラク戦争に際して、プーチン大統領は、米英軍が国連決定のないままに、一方的に戦争を行うことに反対したが、これにはイラクにおけるロシアの石油権益、独仏との地政学的協調、と共に国内ムスリムの反応に対する慎重な判断（Beliefnet.com/story/124/story_12442.html）等を斟酌したものと考えられる。 ロシア・ムスリム指導層の戦争反対の見解も明らかである。特にタルガット・タジュッディンは積極的に開戦阻止の活動を行なった。タジュッディンはロシア正教会と協力して、ロシア宗教者訪イラク団を結成、マガダンのフェオファン Feofan 主教他正教会代表２名と 10 名のムスリム代表団を率いて、2003 年 3 月にイラクを訪問して、イラク政府首脳に戦争回避の説得をした。一時、人間の盾を務める意向があるような報道もなされたものの、結局開戦前日ロシアに帰国したが、この旅行は彼がロシア・ムスリムの指導者であることを全世界に対して印象付けるものになった（Ignat'ev,A.Muftij Tadzhuddin ne stal <<zhibym shshitom Bagdada >>, *NG-Religii*,No.5,Mart 19,2003;Nedumov,O. Islamskie lidery strojatsha vokrug Kremlja,*NG*,Mart 27,2003;Silam'ev, P. Khristiane i musul'maneobe''dinilis' protiv SSHA,*NG-Religii*,No.6,Aprel',1,2003）。

さて、イラク戦争の趨勢が定まった４月初め、ロシア・ムスリムにとって、重大かつ不可解な事件が起こった。タジュッディン師が、戦争の趨勢がほぼ決定した４月３日、バシュクルトスタンのウーファで開催された反戦集会でアメリカに対する聖戦を布告したという報道がなされたのである。この布告に対して国内ムスリム組織から直ちに賛否両論の反応が見られたが、師の声明の正確な文言は伝えられておらず、状況は不明である。少なくとも、聖戦を布告したという文脈での本人確認はなされていない。また、戦争を準備する何らかの具体的行動も報道されていない。治安当局者からのコメントはなされたが、政府首脳、議会関係者からのコミュニケは発表されなかった。このように、ロシア第 2 の宗教であるイスラーム教団体の趨勢は、ロシアの対内外の政策に重大な意味を持つと考えられるが、ここでは信者数と組織の問題に限って述べる。

1 ロシアのムスリム人口と分布

ロシアの人口調査は、ソ連時代の調査と同じく信教別の調査を行っていないので、ムスリム人口について、さまざまな推計が行われている。 ムスリム政治・文化運動の活動家でアゼルバイジャン人のゲイダル・ジェマル Gejdar Dzhemal' は、15 から 20%（Kislov, Pavel.Gejdap Dzhemal,*Kto est' Kto*,No.3.19（whoiswho.ru/russian.Password/journals/31998/gzemalr.htm)とする。2 千 150 万から 2 千 900 万人である。他にもイスラーム運動の指導者たちはしばしば、2 千 9 百万人、ロシア総人口の 20%のムスリム人口があると主張するものがあ

る（Tul'skij,Mikhail.Vakhkhabity v Rossii pobezhdayut umerennykh Musul'uman?,*NG*.,2001, 6,19）。（数値１とする）しかし、この積算の根拠は曖昧にされていた。

『イスラームに向かう北コーカサス』、『今日のロシアにおけるイスラームの復興 』等の著者マラシェンコ Malashenko,A.V.の見解によると、2001 年 12 月の「宗教とロシアの国家安全保障問題」会議では、20 年後ロシア国民の 3 分の 1 は、モスクワ、サンクト・ペテルブルグの人口の 40%、軍隊の 50%がムスリム（Malashenko,Alekcej. Rech' Stronnikov Yel'tsina-Musul'mane,*NG*,1996,6,6）によって占められるようになるであろうと述べる。もし、20 年後ロシアでは人口の 3 分の 1 がムスリムで占められるとすると、現在はロシアの人口のどの程度がムスリムなのであろうか。マラシェンコは、信者としての個人ではなく、信者が帰属する民族全体をムスリムとみなすことを主張し、以下のように推計している。2000 年に「ロシア国家勤務アカデミーRAGS」の研究者は、「イスラームの伝統に従う人々」を 1 千５00 万人と推計した（数値 4）が、彼は、この数字はロシア国籍所持者については、実態に近いと考えた。 しかし、ロシアには多数のムスリム旧ソ連市民人が居住していることは、よく知られている。アゼルバイジャン人だけでも 50 万人から 150 万人に達する。 モスクワで 20 世紀末にシーア派のモスクが開かれ、他の都市にも開設の気運がある。またアゼルバイジャン人に継ぐ人口を持つカザフ人々口も百万を超えている。ロシアに居住している外国人ムスリムの人口は 150 万人を数え、彼らと結婚しているロシア人女性と子供たちの数、信者という観点であると 200-300 万を超えないであろうが、これを入れると２千万人に近いであろう。誰をムスリムとみなすか対極的な考え方があるが、マラシェンコは、民族・文化的伝統に注目しロシアのイスラム人口が 2 千万人であるとする（数値２）。その数はロシア全人口の 12%を占めるが、インドのムスリム人口の割合と同様であり、フィリピンの 5-6%を遥かに超えること。また、ロシアにおいては、ムスリムは民族的であることことを強調している（Malashennko,Islam i politika,str.7-8）。

また、先に述べたようにモスクワのムフティー、ガイヌトッディンは信者総数を 1.9 千万から２千万とするが、これら信者団体が用いる数字は外国ジャーナリズムによってもそのままロシア・ムスリムの概数として用いられている（Renik,K.Islam in Russia—Divided Loyalties,*The Warsaw Voice*,June 4 ,2000,No.23(http://www.warsawvoice.pl/v606/News02.html); Zwischen Christos und Allah,kreuz+quer,21.0.2000 um 23.05 Uhr in *ORF2*(http://religion.orf.at/tv/kreuz/kr0321.htm)。研究者の中でも、人口学者ではないがコビシチャノフ（Kobishshanov, Ju.M.Musul'mane v Rossii,str., 61）は、ムスリム人口を非ロシア国籍者を含め２千万人、総人口の７分の１とする。即ち、14.3%である。

他にも、ポリャコフ Poljakov,K.I.は、格別根拠を示さないが、ロシア連邦のムスリム人口を 12.5%とした。1 千 8 百万人である（数値 3）。

次に『イズヴェスティヤ』誌のマクスィム・ユースィン Maksym Jusin 記者は、1989 年実施のセンサスに基づき、ムスリム人口を 1 千 179 万人であると推定した（Skol'ko u nas Musul'man,*Izvestija*,2001 年 10 月 17 日）。これは単純な方法による。つまり、1989 年センサ

スには宗教の欄はないが、民族の項目はあるので、伝統的にムスリムであると考えられている民族集団の人口の総計を行ったものである。方法的には問題があるが、数字的には明瞭であるこの推計は、様々なジャーナリズムでも用いられている（例えばラジオ自由ヨーロッパhttp//www. racoon.riga. lv/mineralres/archaive//10242001-17:03:59-18404.html）。即ちこの数字は1千1790万人であり、オセット人、チュヴァシュ人、ウドムゥイルト人、マリ人をすべて非ムスリム、カバルダ人、タタル人をすべてムスリムをして相殺すれば、上の想定ロシア・ムスリム人口がほぼ実数に近く、条件が整えば間もなくイスラーム教徒の数は1千300万人、全人口の9％になるであろうというのが、ユースィンの結論である（数値5）。しかし、この数字は2千万人には遠く及ばず、まして人口の20%というのは、ソ連のムスリム人口の百分比を機械的に適用したのであると考えている（Jusin,M. Skol'ko u nas Musul'man,*Iz.*,2001 年10月17日）。同様に1989年センサスの数に自然・社会増（Anatolij Vishnebskij による）を加えると、1999年のムスリム人口は1千317万人になるというのが、当局の見解である（Tul'skij,Mikhail.Vakhkhabity v Rossii pobezhdayutumerennykh Musul'man?, *NG*.,2001,6,19））。1千300万人という概数は、Kosichkina, M.The Anti-Terrorist Operation, *Politruk*,No.39,24,Oct.2001(subscribe.ru/archive/media.politics/200110/24152959.text)でも用いられている。

ソ連におけるムスリム人口推計をムスリム民族の人口の集計によって行うという方法は、エレーヌ・カレーヌ=ダンコース Helene Carrene d'Encause にも見られる（『崩壊したソ連帝国－諸民族の反乱』1978年、高橋武智訳、初版新評論、再版藤原書店、1990年）。女史は、ソ連邦の「ムスリム出身者」（前掲書406 etpassim）が、「5千万以上」であると述べたが、推計の根拠あるいは過程を示すようなことはしなかった。これは、女史が人口統計を設けて厳密に分析した他の要件とは精度において異なったレベルの問題であったからであろう。また、イスラームは帝国に対する反乱の中心にはならないという判断があったからであろうか。

一方では、伝統的にムスリムがマジョリティーであった民族から信仰を持っていない人々の割合を算定して、総数から減じ、信仰者としてのムスリム人口を探る作業もなされている。ミハイル・トゥールスキーは、1996年の調査ではタタルスタンに住むタタル人の60%（都市）、88%（農村）しか信者であると申告せず、また1999年では、77%が信者であると答えたものの、その内7％は正教徒であることをあげて、人口統計の民族別人口数の合計では正しい数値は得られないと考え、数種の世論調査の結果を利用して正確なムスリム人口を割り出そうと試みた。まず、『世論 Obshshestvennoe mnenie』2000年6月は、ロシアのムスリムを総人口の4.2%、モスクワでは、2.9％とみなし、『世論 Obshshestvennoe mnenie』2001年5月では、全ロシア人口の5%、モスクワ人口の2％と推定したことを紹介した。2001年1月の推計では、ロシアの人口は、1億4千5百万、モスクワの人口は8百40万人である。また、モニタリング Monitoring 社の調査によると2000年12月の段階で、何らかの宗教を信じているロシア国民は55%、その内91%は、正教徒、9％がムスリムで

あった。すなわち、信者全人口の4.95%がイスラーム教徒である。また、ROMIR（科学アカデミー社会政策研究所）の1999年9月の調査（1999年11月発表）では、全ロシア人口におけるムスリムの割合は、4.2%から6%であった。2001年の推計総人口を上記の1億4千5百万人とすると、上の調査に基づくロシア・ムスリム人口は最低609万人、最高870万人となる。さらにトゥールスキーは、この数字は地域別に別個の調査で得られるロシアのイスラーム人口の推計数7-9百万と一致すると結論を導いた。これにロシア民族の（russkie）ムスリム数を算入し6%、8-9百万（数値6）がロシア（rossiskie）のムスリム信者数として適当であるという結論を下した（Tul'skij,Mikhail.Vakhkhabity v Rossii pobezh dayut umerennykh Musl'uman?,*NG*.,2001,6,19）。上記のマラシェンコも、こと信者数という観点に関する限りは、トゥルスキーの説を支持する。

ロシア・ムスリムの人口に関しては、誰をロシア・ムスリムに数えるかとう判断の違いによって、8-9百万人（数値6）から2.9-3千万人（数値1）という幅の広い数が得られるが、ロシアのムスリム信者組織自体は、2千万人（数値2）という数字を掲げている。また、細部にわたっては、どの民族を伝統的なムスリム民族に数えるかという問題も残っている。例えばヤロスラヴ州のクルド人はイェズィディ教徒であって、むしろ民族名称自体をクルドからヤズディと変更する希望を持っている（Pushkar,Dmitry & Tutaev Bucolic. Scnene with Ex-Mayyor,Sky-diver,Yezidis,*MN*,No.2-3,2003）。

信者数を統計的に把握する社会学者の科学的態度に拘わらず、次のような考え方もある。「<ムスリム>は何かは、簡単には明らかにできない。一方では、<自分はムスリムである>というアイデンティティーがあり、それ以上の問題ではないかもしれない。ムスリムの中には一生の中一度もモスクに行かず、食事の規制を守らず、一度もコーランを開かなかった世俗的人間も自分をムスリムであると考える。多かれ少なかれ彼らは、自分達が他のロシア人から区別されていることを切実に感じている。<ムスリム民族>のほとんど100%が、自分をムスリムであると考える。これはロシア人における正教アイデンティティーよりはるかに高い（種々な資料によると65%から75%）。自分をムスリムであると考えない<ムスリム民族>もあるが(例えば、正教徒タタル人、無神論者など)統計的に極く僅かである（Zabello,Ja. Ochom dumaet bezmolvnoe men'shinstvo?,Russkij Zhurnal,11 Ijulija 2002＝www.russ.ru/politics/20020711-zab.html）」。

ラジオ自由ヨーロッパ/ラジオ・リバティー（http://racoon.riga.lv/minelres/archive//10242991-17:03:59-1840.html）が、『イズヴェスティヤ』（2001年10月17日号）ユースィン論文に掲載の表をそのまま転載し、題目だけを「伝統的にイスラム教であるロシアの諸民族」とした表は、以下の如くである。

タタル人	5,522,000
ダゲスタンの諸民族	1,749,000
バシュキル人	1,345,000

チェチェン人	899,000
カザフ人	63,600
カバルダ人	38,600
アゼルバイジャン人	336,000
イングーシ人	21,500
カラチャイ人	150,000
ウズベク人	1207,000
アドゥゲイ人	123,000
バルカル人	78,000
チェルケス人	51,000
キルギズ人	42,000
トルクメン人	40,000
タジク人	38,000
アバザ人	33,000
クリミア・タタル人	21,000

（ダゲスタン人には、アヴァル、ダルギン、クムィク、レズギン、ラク（テキストでは、ラズ）、タヴァサラン、ノガイ、ルトゥル、アグル、ツァフルの諸民族が含まれている）。

合計は 1 千 179 万 1 千人であるが、クルド人、メスヘティ・トルコ人などが含まれておらず、ノガイ人はすべてダゲスタン民族に計上され、ターティー人がダゲスタン住民として認識されないなどの問題点が残る。

地域別に見ると、ロシア連邦全 89 箇の構成体の内ムスリムが半数以上であるのは、タタルスタン、バシュコルトスタン、カラチャエヴォ・チェルケスィア、カバルディノ・バルカリア、イングシェティア、チェチェニア、ダゲスタンの 7 共和国、10%から 50%までであるのは、チェリャビンスク州、オレンブルグ州、アストラハン州、アドゥィゲイ共和国の 4 構成体、5%から 10%までであるのが、マリエル共和国、ウドゥムルト共和国、テユメン州、ペンザ州、サラトフ州、カルムィク共和国である（地図 3 参照）。またロシアには 114 のムスリム教育機関、600 の初等メドレッセがあり、数千から 1 万人の児童生徒が学習をしている。モスクワでは金曜モスクに 34 の学習グループがあって、コーラン、イスラーム史、習慣などを学習している（Jusin.Skol'ko u nas Musul'man,*Iz*.,2001 10 月 17 日）。

2 ロシアのイスラーム組織

1）信者団体とムフティヤット

ロシアにおけるイスラーム組織の基礎は個々の信者団体である。北コーカサスには 1,499 の団体があり、内訳は共和国別にダゲスタン 1,099、チェチェニア 300、カバルディノ・バルカリア 130、カラチャエヴォ・チェルケシア 108、イングシェティア 85、アドゥィゲイ 28、北オセティア 19 である。また最近 10 年間に 1,322 の文化施設が建設されている。ま

た政府は既にイスラーム団体に468の施設を譲渡済みであり、さらに32施設の譲渡を検討中である。 以下、ムハメットシン（Mukhametshin,F.M. Islam v sovremennom rossijskom obshshestve,ctr.36-37）により、北コーカサスとロシア本土・シベリアに分け、連邦構成体毎に団体数を示したが、それぞれに人口、共和国については、基幹民族人口を付け加えて示した。なお、基幹民族とは共和国名に表現されている民族であるが、コーカサスでは、これとは別にコーカサス固有の民族という考えかたもあり、 伝統的「ムスリム民族」かどうかの判定上、意味がある場会がある。なお、現在ロシアでは連邦と各種連邦構成体の間に連邦区が設置されているが、南ロシア連邦区には、大コーカサス山地部の7共和国にクラスノダル、スタヴロポリ２地域、ロストフ州を加えたソ連時代の北コーカサスに、更にカルムイク共和国が含まれている。

北コーカサス諸共和国

ダゲスタン	1,099（258.42万人）	基幹諸民族175万
チェチェン	300（110.03）	チェチェン人89.9万人
カバルディノ・バルカリヤ	130（ 90.05）	カバルダ人38.6万人
カラチャエヴォ・チェルケスィア	108（ 43.97）	カラチャイ人15万
イングシェティア	85（ 46.89）	イングーシ人21.5万人
アドゥィゲイア	28（ 44.70）	アドゥィゲイ人12.3万
北オセティア・アラニア	19（ 70.99）	オセット人40.2万人

北コーカサスでは、イスラーム的東コーカサスという性格が非常によく現れていると言えよう。

ロシア本土・シベリア・極東では、2641の登録済み団体がある。以下の表では、総人口（典拠ロシア連邦統計局 HP）と基幹民族あるいは、主要な非ロシア民族の名称と人口数を示した（＊は1989年調査による百分比、＋は1989年調査による概数を一万人単位で記した）。なお、参考としてチュヴァシ人の人口を付してある。

共和国以下同じ

タタルスタン	985	(377.98)	*タタル48.5%+タタル164.1 バシキル0.9 チュヴァシ14.7
バシュコルトスタン	560	(410.29)	*バシュキル21.9%、*タタル28.4%+タタル94.0 バシュキル93.6 チュヴァシ12.2
チュヴァシア	38	(131.39)	+タタル3.8 チュバシ88.8
モルドヴィア	11	(88.87)	+タタル4.6万

ウドムルティア	25 (157.05)	+タタル 9.9 万
マリエル	24 (72.80)	+タタル 4
アルタイ	2 (20.29)	+カザフ 0.9
カルムイキア	6 (104.09)	+チェチェン・ダゲスタン・カザフ 1.9 万
サハ	3 (94.81)	+タタル 1 万
コミ	1 (101.9)	+タタル 1.8 万
ハカスィア	2 (54.61)	+タタル 0.4 万
ブリヤーティア	3 (98.10)	+タタル 1 万

地域（kraj）以下同じ

アルタイ	1 (260.72)	+カザフ 1.9 タタル 0.8
クラスノダル	11 (512.44)	+アディデ 1.6 タタル 2.4 チェルケス 0.4
沿海州	3 (206.82)	+タタル 1.9 チュヴァシ 0.5
スタヴロポリ	39 (273.05)	+カラチャイ 1.2 ダゲスタン 3.5 チェルケス 0.2 アバザ 0.2 タタル 0.8 トルクメン 0.9 チェチェン 0.9 カバルダ 0.5
ハバロフスク	1 (143.54)	
クラスノヤルスク	9 (296.62)	+タタル 2.チュヴァシ 2.7

州（oblast'）以下同じ

オレンブルグ	91 (217.75)	+タタル 15.1 カザフ 9.7 バシキル 4.3
テユメン	93 (326.57)	+タタル 13.7 バシキル 0.9 カザフ 1.0
ウリヤノフスク	79 (138.23)	+タタル 13.5 チュヴァシ 9.2
サマラ	76 (323.98)	+タタル 10.4 カザフ 1.1 バシキル 0.6
ペルミ	76 (282.44)	+タタル 15.8 バシキル 4.9
チェリャビンスク	75 (360.61)	+タタル 22.0 バシキル 13.3

		カザク 2.8
ペンザ	71（145.34）	+タタル 7.8 チュヴァシ 0.7
スヴェルドロフスク	51（448.98）	+タタル 17.9 バシキル 3.0
アストラハン	38（100.72）	+カザフ 10.7 タタル 7.1 チェチェン 0.5 ダゲスタン 0.3 トルクメン 0.2
オムスク	36（207.92）	+カザフ 6.1 タタル 4.7 チュバシ 0.6
ニジェゴロド	29（352.40）	+タタル 0.7 チュバシ 0.8
クルガン	27（101.99）	+タタル 2.3 バシキル 1.8 カザフ 1.4 チュヴァシ 0.2
ノヴォシビルスク	22（269.22）	+タタル 2.9 カザフ 1.2 チュヴァシ 0.7
サラトフ	20（266.93）	+カザフ 6.3 タタル 4.8 チュヴァシ 1.7 バシキル 0.3
モスクワ	20（662.70）	+タタル 5.2 チュヴァシ 0.9 ウズベク 0.7
ヴォルゴグラド	16（270.25）	+カザフ 3.5 タタル 2.6 チュヴァシ 1.0 チェチェン 0.5
トムスク	9（104.60）	+タタル 1.8 チュヴァシ 0.8
ロストフ	9（440.67）	+タタル 1.7 チェチェン 0.9
ケメロヴォ	11（290.02）	+タタル 6.5 チュヴァシ 2.6 バシキル 0.4
イルクーツク	5（258.16）	+タタル 4.1 チュヴァシ 1.2 ウズベキ 0.3 バシキル 0.3
ヤロスラヴ	2（136.77）	+タタル 0.7
ヴラディーミル	4（152.49）	+タタル 0.9
カムチャッカ	1（35.88）	+タタル 0.5 チュヴァシ 0.1

コストロム	1	(73.75)	+タタル 0.3
トヴェル	1	(147.26)	
リャザン	1	(122.80)	+タタル 0.4
アムール	1	(90.25)	+タタル 0.8 チュヴァシ 0.2
ヴォログダ	1	(127.00)	
クルスク	1	(123.56)	
カリニングラド	1	(95.52)	+タタル 0.3 チュヴァシ 0.3
レニングラド	1	(167.11)	+タタル 0.6 ウズベク 0.4 アゼルバイジャン 0.2 チュヴァシ 0.2
ムルマンスク	1	(89.33)	+タタル 1.0 チュヴァシ 0.3
オルロフ	1	(86.06)	
プスコフ	1	(76.09)	
イヴノヴォ	1	(114.89)	+タタル 1.1 チュヴァシ 0.2
民族管区(okrug)以下同			
ハントィ・マンシ	21	(143.31)	+タタル 3.8 バシキル 0.8
ヤマル・ネネッツ	10	(50.74)	+タタル 0.9 チュヴァシ 0.09 バシキル 0.09
連邦都市(gorod federal'nogo znachenija)以下同じ			
モスクワ	24	(1,035.78)	+タタル 12.9 チュヴァシ 1.2 アゼルバイジャン 0.8 カザフ 0.4 ウズベク 0.4 バシキル 0.3 タジク 0.1 キルギズ 0.1 トルクメン 0.1
サンクト・ペテルブルグ	2	(466.94)	+タタル 3.6 チュヴァシ 0.5

共同体数の小さい地域は、タタル人、バシュキル人、カザフ人、チュヴァシ人などを指標にするとウラディミル、イヴァノヴォ等のように、人口数千で1共同体を形成してる。これは居住の様式によっても異なるであろう。信者団体の数が多いチュメンはこの20数

年間に大幅の人口増加がみられるが、同じく団体数が多いウリヤノフスク、ペンザは人口増がない。これらでは宗教活動が盛んと言うべきであろうか。1979 年調査では、この表で指標としたタタル人、バシュキル人などの人口が個別に表記されず、その他に含まれているにも拘わらず、ムハメトシンの論文では団体数が報告されている地域（上の表では構成民族の欄が空白となっている）では 1970 年以降の人口増があったと考えられる。逆にサハリン（1979 年のタタル人 1 万 1 千人）やチタ（同 1 万 3 千人）で信者団体数が挙げられていないのは、地域の社会的状況、特に居住形態が拘わるであろう。また、カザン・タタルのみならず、クリミア・タタル、シベリア・タタルなど歴史的に非常に異なった集団がタタル人などの名称で一括されているため、あるいはカザン・タタルの中のエスニックな差異、正教徒タタル人の存在等が関わる可能性もあろう。それにしても、キーロフ州は 1979 年の人口調査では、4 万 5 千人のタタル人を有しているにも拘わらず、一個の信者団体も登録されていないのは、興味が持たれる。

これらの信者団体は、法務省に宗教団体として登録し、モスクを運営・維持する単位となるが、通常上級の団体に所属している。その団体は州・共和国など連邦構成体レベルで、地方宗務局（ムフティヤット Muftiyat）あるいは法官管区（カズィヤット Kaziyat）として組織されている場合がある。更に全ロシア的規模では、ソ連時代に「ソ連ヨーロッパ部およびシベリアムスリム宗務局（Dukhovnoe Upravlenie musul'man Evropejskoj chasti SSSR i Sibirii＝DUMES）が、バシュコルトスタンのウファに設置されていたが、最後の議長タルガット・タジュッディン Talgat Tadzhuddin（タズィエフ Taziev）は、1994 年 11 月に第 6 回臨時ムスリム大会を開催し、738 人の代表を集め、DUMES を TsDUM=ロシアおよび独立国家共同体ヨーロッパ部ムスリム中央宗務局 Tsentral'noe upravlenie musul'man Rossii i evropejskikh stran SNG に改編、ロシアの最高ムフティーVerkhovnyj Muftij（称号はシェイフ・アル・イスラム）に選出された。彼はバシュコルトスタン、モルダヴィア、ウドムルティア、マリエル、アルタイ、クラスノダル、ハバロフスク、オレンブルグ、ウリヤノフスク、サマラ、テュメニ、ペルミ、チェリャビンスク、ペンザ、スヴェルドロフスク、アストラハン、クルガン、モスクワ（州）、ヴォルガグラド、トムスク、ロストフ、ケメロヴォ、アムール、レニングラド、モスクワ、サンクトペテルブルグ、ハントィ・マンシ、ヤマル・ネネツ等の地区を掌握し、登録信者団体 868 の支持を得ている(Mukhametshin,str.38)。別の情報によるとタジュッディンは、29 ムフティー区を掌握している（SupportUmmaNews, June212003 www.pinaonline.com/viewarticle.php?sid=1478）。新興勢力として TsDUM に対抗する全国組織として、1994 年モスクワ金曜モスクを中心にラヴィル・ガイヌトッディン Ravil' Gajnutdin が、組織した「中欧ヨーロッパ部ロシア・ムスリム宗務局 Dukhovnoe upravlenie musul'man Tsentral'no Evropejskogo regiona Rossii 」（1998 年から現在の「ヨーロッパ部ロシア・ムスリム宗務局 Dukhovnoe uprablenie musul'man Evropejskogo regiona Rossii（DUMER）」がある。チュヴァシ、モルドヴァ、コミ、クラスノダル、オレンブルグ、ウリヤノフスク、ペルミ、ペンザ、ニジェゴロド、サラトフ、モスクワ、ヴォルガグラド、

ヤロスラフ、ウラディミル、コストロム、トヴェル、リャザン、ロストフ、ヴォログダ、クルスク、カリニングラド、ムルマンスク、オルロフ、イヴァノヴォ、モスクワ市、サンクトペテルブルグ等の団体を掌握している。いくつかの地域では TsDUM と DUMER の勢力の競合が見られる。DUMER に参加している信者団体は、全国に 135 であると言われている（Mukhametshin,str.38）。

さらに、ガイヌトッディンは、1996 年第 1 回ロシア・ムスリム指導者会議を催して、DUMTsER の上部機関としてロシア・ムフティー会議（Sovet Muftii Rossii）SMR を組織、ら議長に就任した。この組織にはソ連崩壊後ラディカルな活動を続けているアシロフ Asirov、ビバルソフ Bibarsov、ニグマットゥリン Nigmatulin 等だけではなく、タタルスタン、バシュコルトスタン、アディゲイア、カバルディノ・バルカリア、北オセティア・アラニア、イングーシェティア等の独立系のムフティー管区が加わっている。

さて、DUMER には 1997 年よりそのアジア的パートナー「アジア部ロシア・ムスリム宗務局（DUMAChR）があって、原理主義的傾向の強いアシロフの指導のもとにチュヴァシ、アルタイ、サハ、ハカス、ブリヤーティア、沿海州、スヴェルドロフスク、オムスク、クルガン、トムスク、イルクーツク、カムチャッカ、ケメロフ、ヤマル・ネネツに勢力を伸ばし、107 団体を掌握している。この数は 1999 年の出版物では 60 団体であったので、伸長著しいことになる。TsDUM 側のシベリア宗務機関 DUMS は、西シベリアで DEMAChR と厳しく対立していたが、こちらも近年組織形態上 TsDUM から独立した宗務局であることを宣言している。ハカス、ノヴォシビルスク、オムスク、トムスク、ケメロヴァ、クラスノヤルスク、モスクワに勢力を築き、60 以上の信者団体を抱えてい（Mukhametshin,str.38）。

中立系の信者団体は、カルムイク共和国では「イスラーム・センター」、ハガス共和国では「サヤン Sajan 法官管区（kazijat）」、またクルガン法官管区、イルクーツクで「バイカル法官管区」があり、またタジュッディン派とガイヌトッディン派の対立が激しい西シベリアのテュメンのムスリム庁は態度を決めかめている。また「モスク協会 Assosiatsija Mechetej」は、タタルスタンにタタルスタン共和国ムスリム宗務庁 DURT」とは別に、「カザン・ムフティー区 Kazanaskij Muftijat」を設立するなど信者組織は変動しつつある（Mukhametshin,str.38）。

ソ連時代北コーカサスには「北コーカサス・ムスリム宗務庁 Dukhovnoe uprablenie musul'man severnogo Kavkaza=DUMSK」が置かれていたが、現在は共和国毎に宗務局が成立し、全体をイングーシ人マゴメド・アルボガチイェフ Mogamed Albogachiev の北コーカサス・ムスリム協力センターKoodinatsionnyj Tsentr musul'man Severnogo Kavkaza （2001 年 1 月成立）によって統合されている（Mukhametshin,str.36）。

連邦区毎の概要を述べよう。中央連邦区ではモスクワ地方（市と州）に信者が集中し、TsDUM と DUMER が対立するが、それ以外では DUMER が強いとは言え、信徒共同体数そのものは極少ない。北西連邦区でも DUMER が強いが、ここでも信者団体数は極く少ない。南ロシア連邦区では、カルムイキアを除く共和国部は北コーカサス・ムスリム協力セ

ンターに属している。同連邦区北部ではTSDUM,DUMERが対抗している。ヴォルガ流域連邦区は最も強力なグリーン・ベルト（イスラーム教の力が強い地域の呼称）である。特にタタルスタンとバシュコルトスタンが中心となっている。ウラル連邦区すなわち西シベリアではタタルスタンやバシュコルトスタンのような中心はないものの強力なイスラーム地帯である。ヴォルガとウラルの信者分布は、タタール人の広がりと関係していると見られる。東シベリアは、即ちシベリア連邦区であるが、南部の都市に信者団体が展開しているが、アシロフの支持者はタジュッディン支持者と互角に組織を展開している。このようにTsDUMはグリーンベルトで支持団体が多いが、これは1980年以来信者組織の長であるタジュッディンの組織の伝統主義的性格を反映していると見られる。一方、中央連邦区・北西連邦区・シベリア連邦区・極東連邦区都市部、およびモスクワ地方やグリーンベルトでも都市部を中心に展開していることが、ガイヌットディン、アシロフの組織の特徴である。特に教義的にアシロフに顕著な傾向は、彼の発言にワッハーブ主義擁護の傾向が見られることである。登録信者団体に基づく上の数字は、信者団体の65%がDUMERに、僅か15%がTsDUMに従っている、あるいはTsDUMは人口希薄地のムフティヤットを押えているに過ぎないというガイヌッディンの主張を裏付けるものではない（Karush,Sara. Islamic Leaders Clash,*Advocates on behalf of Jews in Russia,Ukraina,the Balkic States &Eurasia,*AssociatedPress,04.17.2002=www.Ncsjisj.org/AuxPages/041703APJihad.shtml）。

2） ムスリム信仰組織の統合。

ロシア2大ムスリム組織の関係は、設立の経緯（北川8-9頁）からみても、大変険悪であった。一方、教義的にみるならば、タジュッディンにロシアのムスリムとしての歴史性・地域性を強調する傾向がある点を除くと両者には字実質上大きな違いはなく、両組織の長は共にいわゆる「テロリズム」を批判している。両組織は統合を目指すべきであるが、そうすることでロシア政府は組織間の無意味な対立や信者の中の紛争を避けることができるだけでなく、ロシア正教会を相対化することが可能になる。今日欧米における国家と宗教の関係は、フランス型非宗教、英米型の一対一対応、ドイツ型の平等な対応等が見られるが、ロシアではこれらと異なって、一対一対応から、政府が全宗教組織に君臨するソ連型の宗教政策を採ることができるであろう。

オスマン帝国において、皇帝（スルタン）はムスリムの長であるシェイヒュルイスラムとアルメニア、ユダヤ、正教其々の長を通して、全臣民の支配者であった。逆に中世グルジア王国においては、首都トビリスィの大法官（カーディー）は、グルジア王の臣民たるムスリムの代表者であることが期待された。前説で述べたようにロシア人口のかなりの部分をムスリムが占める現実からみて、ロシアがキリスト教国家として大統領とモスクワの総大主教との関係にあるものを、同時にムスリム国家として大統領と大ムフティーの間に築くことは、宗教政策上、非常にバランスの取れた戦略である。正教とイスラームにバランスのとれた共存関係を与えて、育成しようとする政策は、既にロシア外部ではアゼルバ

イジャンで、内部ではタタルスタンにおいて実施されている。これによってロシアは始めて正教とイスラーム教の両面を持つ国家となり、国章の双頭の鷲のように東西をみわたすユーラシア国家として明確な自己定義を行うことができ、国家行政制度の中で共和国大統領や州知事を通じてロシア国民たるムスリム市民を統治するだけでなく、大ムフティーを通じてロシア国内外のムスリムに権威を示すことができる。また対外的には、ムスリム宗務局を最大限に利用したソ連時代の中東政策を継承することができよう。イラク戦争の過程で印象付けられように、将来ロシア連邦大統領は正教徒とムスリムのための大統領になることができるであろう。このようにして、ロシアは、ハンチントンの「文明間の衝突」という呪詛を取り除くことができるが、その結果はロシア一国だけではなく、全世界に及ぶことが期待される。

このような見地からするとタジュッディンのイスラーム理解およびロシア観はロシア大統領の構想に最も適切な理論的基盤を与えるであろう。彼はロシアにおけるイスラーム的発展を主張し、極く最近は、自らが属する組織を「聖ロシア・ムスリム中央イスラーム宗務局 Islamskij Tsentralnyj Dukhovnyj Upravnenie Musul'man Svjatoj Rosii」と改称したと言われる（Pukhov,Artem.Talgat　Tadzhudin v detskom sadu,*NG-Religii*,No.98,2003）。

ネドゥモフは、「クレムリンのロシア・ムスリムの主要な中心組織を単一の宗務組織の保護下に統一する試みは、うまく行きそうである。先日、TsDUM 幹部会の臨時会議が開催された。表向きの理由はイラクの戦争についてであったが、その主要な結果は、国内の主要イスラム組織指導者によるロシア最高イスラーム評議会招集が決定されたことである（Oleg Nedumov,Islamskie lidely strojatsja vokrug Kremlja,*NG*,27 Marta,2003）。さて、一方ガイヌットディンが議長を勤める「ムフティー評議会」は、中立系、独立系ムフティーも参加していて、そもそも全ロシアのイスラム組織の統合を目ざしたものであるので、ワシントン・ポスト誌のスザン・グラサーは、「この分裂は国家の利益にかなっている。政府の中には、ムスリムの統合に興味を持たない人々がいる。なぜならば、２千万人というムスリムの数は、一国に匹敵する強力なものだ。だから勿論彼らは統一したムスリム社会を恐れている。分断と統治が有効だからだ」とするガイヌッディンの言葉を伝えている（Glasser,SusanB. Muslims face wider spread persecution, even from each other,*The Concord Monitor On Line*, 24 December,2002www.cmonitor.com/stories/news/recent2002/1224russiamuslims_2002.shtml）。しかし、問題は常に人事にあって、誰が最高ムフティーに就任するかが重要である。タジュッディンには 1991 年のクーデター未遂事件にあって、臨時国家評議会側を支持するという戦術上の失敗があり、政府補助金交付額で は、ガイヌッディン側に大きく水をあけられていた。しかし、1996 年３月タジュッディンは大ムフティーとして、当時のイェリツィン大統領と会談し、プチーン大統領就任後には、対ロシア政府関係は一層改善されて、2001 年には建立したばかりのウーファ・リャリャテュルパン・モスクに大統領を迎えることができた。2002 年５月の「過激派取締法」採択においても、ガイヌットディンがワッハーブ派の厳密な定義無しには、法案に反対したのに対して、タジュッディン

は積極的支持の態度を示した。アンドレイ・イグナチェフ Andrej Ignat'ev は、2002 年の「年頭からすでに二度も彼はプーチン大統領と会見した。TsDUM の長とクレムリンとの接近は、多くの人々に目撃されている。これはタジュディンが自ら入念に計画した政策に好都合である。彼はロシアにおいて優勢で、文化的に発達した宗教として公然と正教を擁護する数少ないムスリム指導者の一人である」(*NG-Religii*,No.5(113),19 Marta,2003)」と述べている。

結び

ロシアのムスリム人口推計にはいくつかの方法が試みられている。第 1 の方法はロシア国籍所有者および住所登録済み外国人、未登録ムスリム外国人や彼らのロシア人家族の合計である第 2 の方法は、ロシア国民中伝統的にムスリム民族であるとみなされる民族の人口を機械的に合算して得られるが、さらにここから非信者数を推計して減じる方法もある。これらの結果得られる数字は、7-8 百万から 3 千万と大きく差がある。

信者組織は大きくはロシア・ヨーロッパ部を統括する TsDUM と DUMER、およびそれらと連携して、其々アジア部を指導する DUMAR と DUMAChR が存在するが、中立・独立の組織の存在も無視できない。

個々の信者と管区の間には、信者団体 (RO) が組織される。法務省に登録されたものは、2,641 団体であるが、非登録のものも多いと見られている。

このような複雑な組織は統治上の観点からは非常に不便であるが、統一してよりプーチンに近い TsDUM のタジュッディンを長にするか、あるいはこれまでのように二つの大組織を操縦する方法を選ぶか、ユーラシア国家としてのロシアの国家的性格にも関わって、今後の動向が注目される。

略号

Iz. *Izvestija*

NG *Nezavismaja Gazeta*

MN *Moscow News*

文献目録

Arsharuni, A. i Kh.Gaidullin,*Ocherki panislamizma i pantjurkizma v Rossii*,Kazan', 2002

Asadulin,F.A. *Musul'manskie Dukhovnye Organizatsii i Ob'edinenija Rossihskoj Federatsii*, Moskva, 1999

Benningsen, Alexsander et als,*Soviet Strategy and Islam*, Hampshire and London, 1989

Bukharaev, Ravil.Rich. *Islam in Russia—The Four Seasons*, Richmond, 2000

Bobronikov, V.Islamofobia i religioznoe zakonodatel'stvo v postsovetskom Dagestane,str.232-266,v.*Etnicheskij natsionalizm i gosudarstvennoe stroitel'stvo*, Moskva, 2001

Borob'ev, C.M., A.M.Erokhin, *Etnopoliticheskie protsessy na severnom Kavkaze: istochniki,dvizhushchie sil', tendentsii*, Stavropol', 2002

Dobaev,I.P. Islamskij radikalizm, Rostov-na-Dony/SKNTsBSh,2003

Ignachenko, A.A. *Khalify bez khalifata*, Moskva,1988

Islam i Islamizm -Sbornik statej, Pod obshshej redaktsiej:E.M.Kozhokina,B.I.Maksimenko, Moskva,1999

Islam v SNG, Moskva/IV RAN, 1998

Islam i narodnaja kul'tura, Moskva, 1998

Islam i politika(Vzaimodejstvie Islama i politiki v stranakh Blizhnego i Srednego Vostoka,na Kavkaze i v Tsentral'noj Azii, Moskva, 2001

Junusova,V.N. *Islam;Muzykal'naja kul'tura i sovremennoe obrazovanie v Rossii*, Moskva, 1997

Khayretdinov, D.Z. *Musul'manskaja obshshina Moskvy v XIV nachale XX veka*, N.Novgorod, 2002

北川誠一『ダゲスタンのイスラム』東北大学、2000年14

北川誠一『アフガニスタン爆撃に対するロシア・ムスリムの態度』東北大学、2002年

Kobishshanov, Ju.M. Musul'mane Rossii,korennye rossijskie musul'mne i russiskie- musul'mane, v *Musul'mane izmenjashshejsja Rossii*,str.61-110

Landa, R.G.*Islam v istorii Rossii*, Moskva, 1995

Malashenko, A.V *Islamskoe vozrazhdenije v sovremennoj Rossii*, Moskva/Moskovskij tsentr Karnegii,1998

Malashenko, A.V.*Islamskie orientiry Severnogo Kavkaza*, Moskva/Moskovskij tsentr Karnegii, 2001

Malashenko, A.V. Islam i politika v sovremennnoj Rossii, v *Musul'mane izmenja shshejsja Rossii*,str.7-24

Mukhametshin, F.M. Islam v sovremennom rossiiskom obshshestvo,v *Musul'ma ne izmenjashshejsja Rossii*,str.25-60

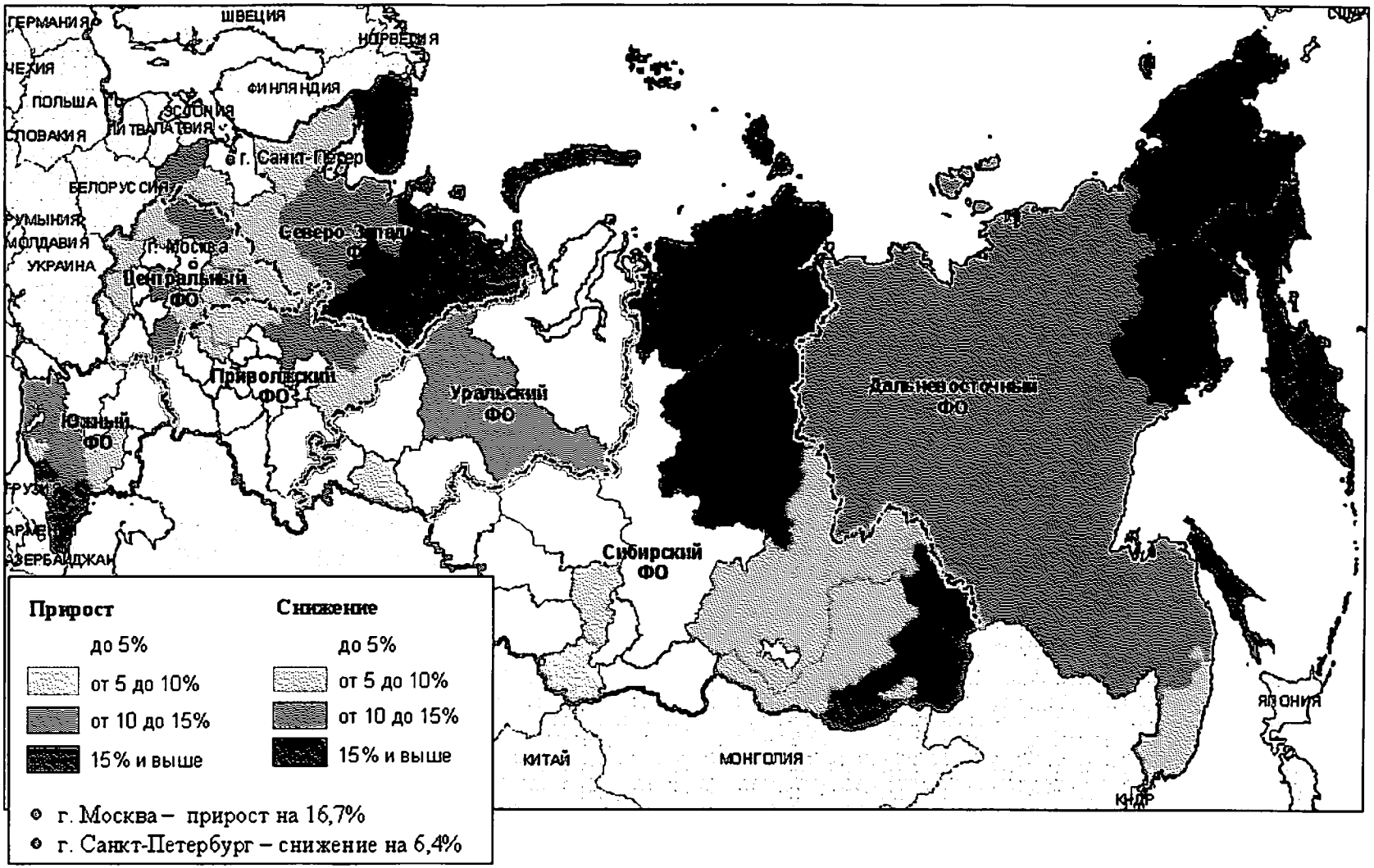
Musul'ma ne izmenjashshejsja Rossii, Moskva/Rosspen, 2002

Nabiev, R.A. *Islam i gosudarstvo*, Kazan', 2002

Poljakov, K.I. *Arabskij vostok i Rossija: Problema Islamskogo Fundamentalizma*, Moskva/YRSS, 2001

Rotar', Igor' *Pod zeljonym zmamenem Islam; Islamskie radikaly v Rossii i SNG*,

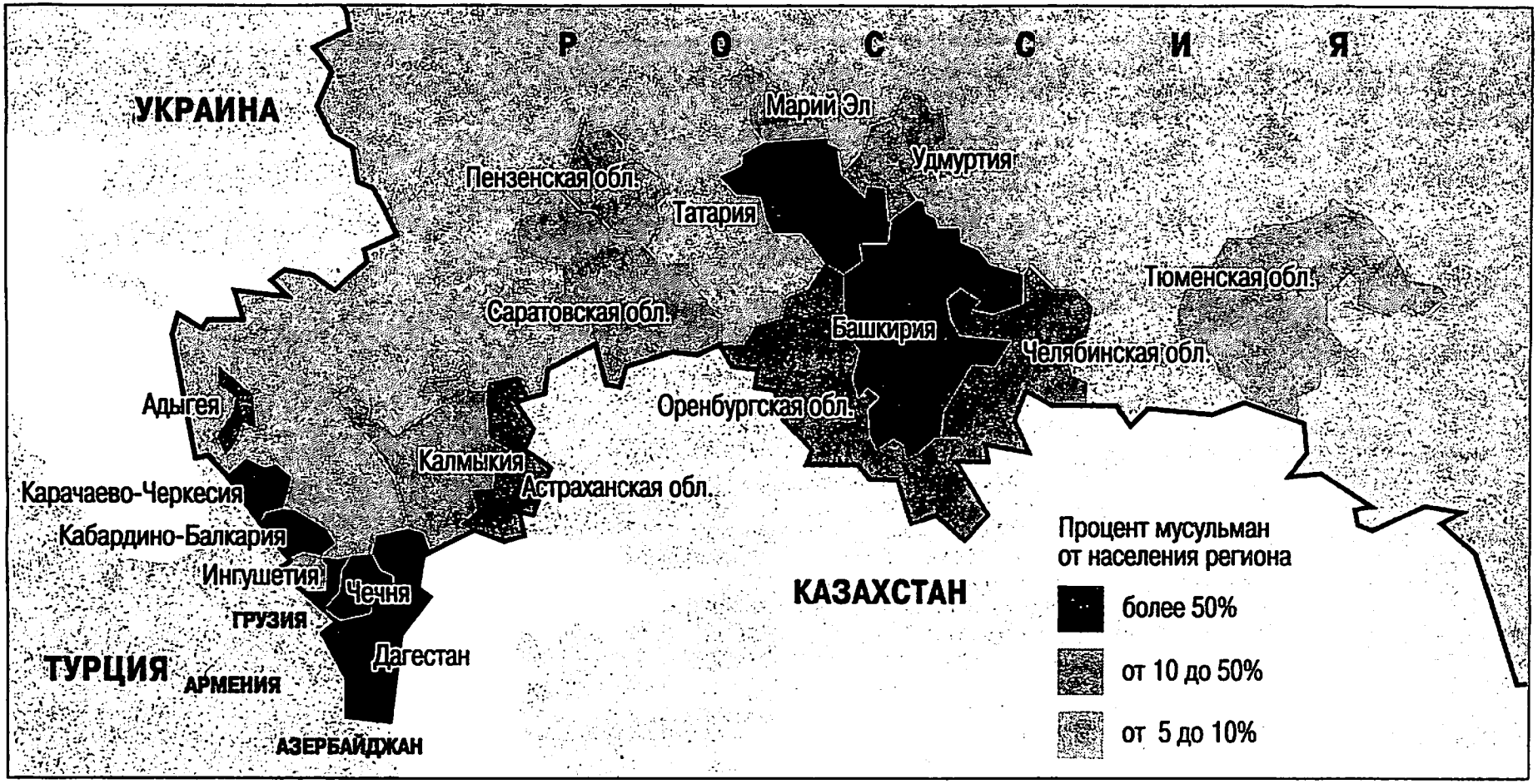
Moskva, 2001
Ro'i, Yaacov *Islam in the Soviet Union,From the Second World War to Gorbachev*, London, 2000
Ugroza Islam ili Ugroza Islamy, Moskva, 2001
山内昌之『イスラムとロシア』東京大学出版会、1995 年
Yemelianova,Galina *Russia and Islam*,Hampshire, 2002
Zenkovsky, Serge A. *Pan-Turkism and Islam in Russia*,Cambridge/MA,1960



地図 1 ロシア連邦区

西から、南ロシア連邦区、中央連邦区、ヴォルガ沿岸連邦区、北西連邦区、ウラル連邦区、シベリア連邦区、極東連邦区

地図 2 ロシアのグリーンベルト（『モスクワ・ニュース』誌より）



«Исламский пояс» России

地図 3 ロシアのグリーンベルト（『イズヴェスティア』誌より）

連邦構成体毎に、全人口に占めるイスラム教徒の割合を、50%以上、10-15%、5-10%の三段階で示している。